

令和5年度 世田谷区立北沢中学校自己評価報告書
(令和4年度の改善方策について実行した改善結果)

北斗の学び舎
世田谷区立北沢中学校
校長 今田敏弘

1 北沢中学校 教育目標

- (1) よく考え進んで学習にうちこめる人
- (2) 豊かな心を持ち責任をもってやりぬく人
- (3) 健康で気力に満ち行動力のある人

2 教育目標を達成するために、さまざま教育活動を通して育成する非認知能力

- (1) 目標を達成する力
- (2) 他者と協働する力
- (3) 自分の感情をコントロールする力

令和5年度は、目標を達成するためには生徒にはスキル(方法)の選択が重要であり、教員が多様なスキルを理解し生徒に提示、アドバイスができることがキャリア発達に有効であると仮説を立てた。それに基づき、校内研究を通して理解を深めた。その結果、キャリア発達を促すコーチング、ファシリテーションスキルをすべての教員が理解し実践に移すことができた。次は教員が生徒に研究の成果を踏まえ実践し、指導方法を工夫しキャリア発達を促すことが課題である。

3 重点目標・数値による指標

令和5年度については、以下のように設定して教育活動を進めた。

「ことばの力」を基盤として、以下の重点目標を達成することを通して、教育の質をより一層高め、表現力やコミュニケーション能力の育成を図る。

- (1) 教育活動全体を通じて、質の高いキャリア教育を展開し、自分らしい生き方を学び、自分づくりができる生徒を育成する。
- (2) 触れ合いを深める環境をつくとともに、コミュニケーション能力を高め、学級・学年・学校への帰属意識を一層高める。
- (3) 行事等において、企画・立案の段階から生徒を参加させ、充実感を持たせ、学校生活の面で「認められている」と感じる状況を増やし、自己有用感をもたせる。

数値目標1「学習内容がよく分かったと自己評価できる生徒」と感じる生徒の割合を85%以上にする。
数値目標2「自分の進路や将来の仕事について考える授業がある」と感じる生徒の割合を85%以上にする。
数値目標3「活躍するチャンスがある」あるいは「認められる」と感じる生徒の割合を85%以上にする。

特に数値目標2は変更して、キャリア教育を推進した。キャリア教育では、年間指導計画を立て計画的に実施した。2年、おおぐまの職場体験ができるようになり、事前事後の学習によって自分の生き方について主体的に考え、行動する態度を育成するとともに職業観や勤労観を育てるように生徒に働きかけた。これらの重点目標・数値による目標の項目では全体的に学校関係者評価の結果は、期待した生徒の肯定的回答割合ではなかった。生徒の実態に応じた指導の工夫や意図的計画的な指導の工夫を図っていく。

4. 学習指導

教科指導については、指導に当たり生徒に評価規準や評価方法、評価材料について丁寧に説明し、わかりやすい評価を目指すとともに、継続して「指導と評価の一体化」等の研修を進め、生徒の学習改善と教員の指導改善を図る。

5. 生活指導等

生活指導等に関わる項目では全体的に学校関係者評価の結果は、昨年度の生徒の肯定的回答割合より低くなった。生徒は時代とともに変化する。生活指導は、生徒の実態に応じて指導することが基本であり、まずは、生徒理解を丁寧に実施することが重要である。提言にあるとおり生活指導は、「自己指導力」を獲得することを目指している。それに向けて、自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成などに留意して生徒一人ひとりが伸び伸びできるような環境づくりを意図的計画的に実施する。

6. 学校関係者評価委員会の報告書の〔次年度に向けての提言〕

全体として、本校の教育活動は良好であり、今後ともこの方向で継続されることを期待する。その上で、次年度に向けての以下の提言を行う。

- ① 学習指導については、授業改善をさらに進め、生徒の主体的参加を一層促すと同時に、各教科・領域でキャリア教育や協働的活動を意識した取り組みを進める。
- ② 生活指導については、生徒自身が学校生活を創り上げるという意識と姿勢を養い、生徒の自己指導力をさらに伸ばす。
- ③ キャリア教育については、「キャリア・パスポート」が実質的な意味を持つよう、その有効な活用を図ると同時に、学校全体の計画の中に個々の授業や取り組みを位置づける。
- ④ 家庭学習や読書など、生徒が主体的に行う学びを一層支援する。また、地域でのボランティア活動への参加を進め、社会の多様な課題（人権やジェンダー等）に触れる機会とする。
- ⑤ 保護者や地域との連携を様々な形で行い、学校運営委員会・学校支援地域本部（地域学校協働本部）をさらに活性化させると同時に、保護者や地域から学校の教育活動についての一層の理解を得るようにする。

以上のご提言いただいた項目を改善の視点として令和6年度の経営計画を作成して進めていきたい

結びに 目指す学校像『魅力ある学校』につながる

特色ある学校と開かれた学校を進めるには、学校の教員一人ひとりが、PDCAを意識したマネジメント力（経営力）を付けることが重要である。学級経営、学年経営、教科経営、部活動経営など説明責任をもつことが重要であり、改善を常に進めることを経営方針に明記する。

それによって「生徒が来たくなる学校」「保護者が我が子を行かせたくなる学校」「教職員が明るく働きがいのある学校」「地域にとって親しみと理解と協力のある学校」すなわち『魅力ある学校』を創造する。